



ホッピーだより No. 440

2021 年 7 月 1 日発行

むかわ町穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6
Tel 0145-45-3141 HP(<http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>)
Facebook(@HobetsuMuseum)

2020 年度の主なクリーニング資料



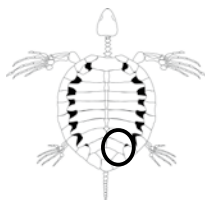
ウミガメ : HMG-2101 の背甲側 (左)・腹甲側 (右)

京都大学大学院に在学していた学生ら（荷福^{さいがく} 洸^{こう}・松永^{たけし} 豪^{ともひろ}・西村智弘^{としふみじゅん}）と OB の小松俊文^{としふみじゅん} 准教授（熊本大学、当時）によって 2005 年に採集・寄贈された平取町産の後期白亜紀ウミガメ化石^{はいしゅう きざう}です。背甲・腹甲が生きていた時と同じような状態で産出しました。地層から採集された標本で、^{はいこう ふくこう}背側が上で産出しました。



ウミガメ (HMG-1474) の背甲と産出したおおよその部位 (イラスト)

^{はるのぶ さっぽろ}大和治生氏（札幌市）がむかわ町穂別で採集・寄贈された後期白亜紀のものです。



ウミガメ (HMG-1216) の頸椎。左側が前方。

^{ほりた}堀田良幸氏（むかわ町穂別）が寄贈された^{クビナガリュウ}首長竜ホベツアラキリュウ産地の近くで産出していたこともあり、首長竜のものと考えてられていましたが、クリーニングした結果、ウミガメの頸椎のようでした。

今回紹介した HMG-2101、1216 は中村学芸補助員^{しょうかい}が、HMG-1474 は阿部学芸補助員^{あべ}がクリーニングしました。

学芸員 西村智弘

カムイサウルスのこれまで⑤



2013年7月の記者発表

左：恐竜発見者の堀田良幸氏

右：北海道大学総合博物館

小林快次 准教授（当時）

恐竜の全身骨格が地層に埋没している可能性が出てきましたが、発掘はすぐには始められませんでした。骨格が埋没している地層があった場所は北海道が管理する森林で、発掘のための樹木の伐採・大掛かりな掘削を行うにあたって許可を取る必要がありました。また、骨格が発見されたのは林道脇の崖だったのですが、その林道は十数年以上に渡って使われていなかったため、沢によって寸断されている箇所もありました。そのため、恐竜化石を運び出すための林道の補修をする必要がありました。

櫻井学芸員（当時）が中心となり手続きを進めていましたが、発掘の許可を取ることと林道の補修作業、発掘予算の確保のために、1年以上の時間がかかりました。そして恐竜発掘の目途がついた2013年7月に「北海道で4例目の恐竜化石が発見されたこと」と「9月から大規模な発掘作業を行う」ことを発表しました。

学芸員 西村智弘



補修前の林道



補修前の林道。点線が林道があった場所。
小沢によって、林道が寸断されていた。



林道の補修作業

むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30 ~ 17:00
(最終入館 16:30)

観覧料	大人	小学生～高校生
個人	300 円	100 円
団体 (10名様以上)	200 円	50 円

小学生未満：無料

むかわ町の小学生～高校生：無料

2021年7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

■ 休館日 ○ 町民無料観覧日 — 臨時休館

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一度に観覧できる観覧者の上限は40名とし、混雑時には入場制限を行う場合があります。また、告知期間の長さに関わらず臨時休館になる場合もあります。ご了承ください。



苫小牧から約1時間半
札幌から千歳経由で約2時間
道東道むかわ穂別ICより約20分